

## 「神に据えられた堅固な基礎」

2019年04月25日

テモテへの手紙 二 2章14節～19節 これらのことを人々に思い起こさせ、言葉をあげつらわないようにと、神の御前で厳かに命じなさい。そのようなことは、何の役にも立たず、聞く者を破滅させるのです。あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。俗悪な無駄話を避けなさい。そのような話をする者はますます不信心になっていき、その言葉は悪いはれ物のように広がります。その中には、ヒメナイとフィレトがいます。彼らは真理の道を踏み外し、復活はもう起こったと言って、ある人々の信仰を覆しています。しかし、神が据えられた堅固な基礎は揺るぎません。そこには、「主は御自分の者たちを知っておられる」と、また「主の名を呼ぶ者は皆、不義から身を引くべきである」と刻まれています。

「これらのこと」とは、前述のわたしたちは、キリストと共に死んだのなら、／キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、／キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、／キリストもわたしたちを否まれる。わたしたちが誠実でなくても、／キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を／否むことができないからである(Ⅱテモテ2:11b-13)」を指している。この言葉は「著者」の神学の核心となる言葉である。これらの言葉を人々に思い起こさせなさい。言葉をあげつらう、徒な言葉争いをしないように神の御前で厳かに命じなさい。徒な言葉争いは、何の役にも立たず、聞く者を破滅させるだけである。当時、人々の心を捉えていたグノーシス主義者のことを言っていると思われる。

「あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。」テモテに対し、神の前に立って、恥じることなく、福音の真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさいと諭す。俗悪な無駄話をする者たちがいるが、そのような話をする者は福音から離れ、ますます不信心になっていく。そして、そのような者の言葉は悪いはれ物のように広がる。「その中には、ヒメナイとフィレトがいます」と名指ししている。ヒメナイに関しては、Ⅰテモテ1章19節b、20節で、「ある人々は正しい良心を捨て、その信仰は挫折してしまいました。その中には、ヒメナイとアレクサンドロがいます」と書かれていた。俗悪な無駄話をする人々は、「真理の道を踏み外し、復活はもう起こったと言って、ある人々の信仰を覆しています」と言う。「復活はもう起こった」とする教えは、洗礼式で自分自身の中で既に復活したと説いたり、子孫の中に生き続けることが復活であると説いたりする教えであろう。このグノーシス主義的な言説は自己満足の信仰から熱狂主義に走り、放縱になっていった。彼らの教えはかなり広い支持を得ていたが、教会は、現実を大事にしない彼らの信仰とは決別した。「著者」は、「神が据えられた堅固な基礎は揺るぎません」と、言葉争いで判断したり、宗教的感情に揺さぶられずに、神が据えた堅固な基礎に基づく信仰が確かなもので、そこに立つ者は揺るがないと説く。神は御自分の者たちが堅固な基礎に立つ者であることを知っておられる。神を求める者は不義から身を引く。民数記16章には、聖なる者の中には神がおられ(16:3)、聖なる者は神に逆らう者の天幕から離れなさい(16:26)と書いている。神が共にいて、義を追い求める揺るぎない者であれと諭している。